

平成29年度 徳島県立脇町高等学校 学校評価 総括評価表

重点目標	課題	評価指標と活動計画		実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題	
学校と家庭が連携を深め、主体的に学習する態度と確かな学力を持った生徒を育成する。	(1) 計画的、効率的な授業の展開	評価指標	1	「主体的で計画的な学習ができています」生徒の肯定的評価70%以上 「シラバスを効果的に活用し、計画的な学習指導ができています」教職員の肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価は66.5%(+9.8)、教員の肯定的評価は72.1%(+1.6)であり、昨年度より向上はしているが、生徒の評価において目標に到達しなかった。	B	B	学習習慣については、学習をやっではいるけれどもそれを自信を持って答えられない生徒も多いのではないかと思われる。学習習慣が定着すれば学力は向上すると思う。中だるみせず学年が上がるにつれて学習量を伸ばすように指導してもらいたい。部活動との兼ね合いもあり難しいと思うが、継続的な指導をお願いしたい。 また、スマートフォン等の使い方についてアンケートを採ってみても良いのではないだろうか。携帯への依存度が高いと学習時間の確保も難しいし、思考力の低下に繋がる恐れがあるので、少し気になるところである。 反省ノート等は教員が力を入れて呼びかけることで学力支援に繋がると考えられるので継続した指導をお願いしたい。 PTAの参加率が低いと思う。もう少し来校してもらおう工夫をお願いしたい。	○生徒の主体的な学習を促す取組は、生徒の自立を促す取組との相乗効果を踏まえて平素から粘り強く継続して取り組んでいく必要がある。 ○学習到達度や学習意欲の低い生徒には個別指導をなお一層充実させる必要がある。さらに、テスト反省の意義を理解させ、意欲的な取り組みをなお一層促す必要がある。
			2	「プリントや補助教材、IT機器などを用いて効果的な授業に努めている」教職員の肯定的評価95%以上	教員の肯定的評価は95.3%(+4.4)であり、目標は達成できた。				
		活動計画	1	シラバスや面談、集会などを効果的に活用し、計画的な学習スタイルを確立させる。	手帳を活用した学習スケジュール管理や各教科・学年での学習方法ガイダンスなどを通して生徒への啓発を行ってきた。また、長期休み以外にも各学年ごとに個別面談を実施し、意識の高揚を図った。				
			2	教材研究時間を確保し、各教科でプリントや補助教材の共有を図る。	各教科内で教員同士の連携を深め、教材の選定・共有を積極的に図った。				
	(2) 指導方法の工夫・改善	評価指標	1	「授業力向上に、授業公開・参観授業を役立てることができた」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は93.0%(+2.16)で目標は達成できた。	B	B	(所見) 評価指標については、14項目中達成できたのは7項目、部分的に達成できたのは4項目、達成できなかったのは3項目であった。また、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の各事業については、協働的問題解決学習のための新たな評価規準を作成し、明確な目標を持って授業に取り組みせたり、「協高を出よう」等の活動にポイント制を導入するなどして生徒の意欲をかき立て、学問的な興味関心の幅を広げ、科学的思考力も深まっている。一方、学習習慣の確立については、30%程度の生徒が不十分であり、家庭学習の増加・定着に向けた指導が必要である。	○協働的問題解決学習研修の一層の充実、SW-ing LSCの積極的な活用を図ることで、全教員の授業力向上への取り組みを今後も継続していく必要がある。
			2	「指導方法や内容の精選、教材の共有などについて、教科内での連携を密に行っている」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は95.3%(+29.4)であり昨年度よりかなり改善され、目標は達成できた。				
		活動計画	1	授業研究週間を年2回(各2週間)設けるとともに、協働的問題解決型の授業公開を全教職員が行う。	授業研究週間は予定通りに実施し、協働的問題解決学習については5回の研修を行った。授業公開も全教員で取り組んだ。また9月には授業研究会を実施し、県内外から70名の参加者を得て研究協議会ができた。				
			2	各教科で教科会や授業担当者打ち合わせを適宜開催し、学習指導方法の工夫や改善について検討する。	教科会は定期的に行うことはできなかったが、各教科で必要に応じて開いたり、平素から連携を深めることを意識して取り組んだ。				
	(3) 学習習慣の確立	評価指標	1	「テスト反省ノートや週末課題に意欲的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は68.5%と低い値だった。	C	C	○日常の学習習慣が確立されていない生徒がいる。また、日々の授業に対する予習・復習が不十分な分、小テストや週末課題への取り組みが弱いと考えられる。毎日の時間の使い方について、生徒個々への指導が必要である。	
			2	「確認テスト・小テストに向けて学習に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は、75.3%で目標には届かなかった。				
		活動計画	1	テスト反省ノートの作成方法を指導したり、予習・復習を促す週末課題を作成することで自主的・計画的な学習習慣を育成する。	テスト反省ノートを作成し、その活用を指導することで予習・復習を促した。				
			2	確認テストや小テストを実施することにより、主体的な学習を促し、基本事項の定着を図る。	定期的小テストを実施し、理解の定着を計った。				
	(4) 目的意識を持った学習態度の育成	評価指標	1	「定期テスト・実力テスト・校外模試に向けて計画的に学習している」生徒の肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価は75%でほぼ目標は達成されている。	B	B	○定期考査や実力テストに対しては、前日等に対策プリントや、部活動の休み等もあって意識が高くなっているが、終わった後の反省・復習が充分に行われていない。テスト後の指導について、工夫が必要である。	
			2	「定期テスト・実力テスト・校外模試の反省・復習を行っている」生徒の肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価は67.7%、もう少しの努力が必要。				
		活動計画	1	定期テスト・実力テスト・校外模試に向けて、主体的・計画的に学習させ、学力の向上と進路目標の実現に向けて努力させる。	定期テスト・実力テスト・模試等の前には対策プリントを配布するなど、意識向上に努めた。				
			2	定期テスト・実力テスト・校外模試の結果を検証し、授業や個別面談等で指導する。	テストの後の振り返りを各授業や、面談を通して指導した。				
	(5) 家庭学習の充実	評価指標	1	全生徒の年間平均家庭学習時間2.8時間以上。1年生2.7時間以上、2年生2.8時間以上、3年生3.5時間以上。	1年生は、平均2.52時間。2年生の平均は2.46時間。3年生の平均は3.91時間だった。	B	B	○3年生になって、受験体制に切り替わるのはスムーズである反面、1・2年生では家庭学習の重要性が伝わっていない。個別面談や三者面談をうまく利用し、進路に対する考えを保護者とともに共有する必要がある。	
			2	家庭学習時間調査において、学習時間が1時間未満の生徒の割合を、4%以下にする。	最終第5回では、1年生では4.2%、2年生では2.9%と回数を重ねて少なくなった。				
		活動計画	1	家庭学習時間調査を通して、家庭における学習状況を把握し、指導に活用することで学習習慣を確立させる。	年間5回の家庭学習時間調査を実施し、自主学習の状況の把握に努め、具体的目標を持てるような指導や、学習習慣が確立するための指導に役立った。				
			2	学年集会等を利用して学習の意義や具体的な学習方法について指導し、家庭での学習習慣の必要性を理解させる。	学年集会や、HR活動において家庭学習の仕方や必要性を指導した。				
	(6) 興味・関心を高める教育	評価指標	1	「生徒の興味関心を高める教材の研究や授業の工夫・改善を積極的に行った」教職員の肯定的評価90%以上 「先生の授業はよく理解できた」生徒の肯定的評価80%以上	教員の肯定的評価は90.7%(+2.1)、生徒の肯定的評価は88.7%(-0.3)で目標は達成できた。	A	A	○授業が理解できている生徒は比較的多いが、基礎基本の定着やその活用という点では課題が残っている。授業の予習・復習の徹底を諮り、家庭学習習慣をより充実させる指導が必要である。 ○授業だけで広い視野の興味や関心を持たせるのは難しいので、校外で実施される研修等にも積極的に参加させられるよう教員からも呼びかける必要がある。	
			2	「SSH事業の各種活動に参加してよかった」生徒の肯定的評価70%以上	12月に実施したSSH生徒意識調査で生徒の肯定的評価は82.3%(+2.3)であった。				
		活動計画	1	文献や書物に接する機会を増やし、話題に富んだ授業を行うなど、生徒の興味・関心を高める工夫がなされた、わかりやすい授業を行う。	授業研修、協働的問題解決学習の職員研修などを計画的に実施し、よく工夫されたわかりやすい授業の実践に努めた。本年度は国数においてスーパーティーチャーによる研修も実施した。				
			2	魅力あるSSH事業を展開し、知的好奇心を向上させる。	SW-ingリサーチでは生徒全員を対象として人口減少社会や美馬市の活性化に関する探究活動を美馬市企画政策課と連携しながら実施した。Sコースの探究科学Iでは京都大学とテレビ会議で連携するなど特徴的な取組が実施できた。				
	(7) 家庭との連携	評価指標	1	「保護者のPTA総会・学年PTAの参加者数」保護者参加者数の割合50%以上	PTA総会参加率(1学年52.6%、2学年34.9%、3学年54.1%)、学年部会参加率(1学年50%、2学年45%、3学年60.2%)であった。	B	B	○家庭との課題の共有と、必要な情報の発信を適宜行っていく必要がある。また、2学年の参加勧誘については、学年と共同して推進していく必要がある。 ○ホームページに関しては、更新の回数は多かったが、ページによってばらつきがあり、どのページも更新されて充実されるよう、改善する必要がある。	
			2	「ホームページは、学校の活動状況等を理解するのに役立つ」保護者の肯定的評価70%以上	保護者への学校評価アンケートによる肯定的評価は70.4(+4.3)で、毎年上昇傾向にあり、本年度は目標を達成できた。				
		活動計画	1	PTA総会や学年PTAへの積極的な参加を促す。	行事予定については、時間的な余裕を持って複数回の告知を行った。				
			2	ホームページの更新を年間100回以上実施する。	ホームページの更新は、年間200回以上できた。				

高い志を持ち、目標の実現に向けて努力し、将来、社会のリーダーとして活躍する生徒を育成する。	(1)	望ましい職業観・早期の進路意識の育成	評価指標	1	「小論文・探究活動や講演会等のW-ing/SW-ingプランの学習を通して、進路意識が高まった」生徒の肯定的評価65%以上 「授業やホームルーム活動を通して、生徒の進路意識を向上させることができた」教員の肯定的評価60%以上	生徒の肯定的評価は75.5%、教員の評価は100%であった。	A	B	<p>勉強もよく頑張っているし、文化活動における活躍も素晴らしいと思う。また登下校時の挨拶もよくすると近隣の方々から聞いているし、素晴らしい生徒たちだと思う。美馬市と連携して行っている人口減少社会についての学習活動において例年感じることはあるが、プレゼンテーションのうまさ、市長からの質問に対する対応が非常に素晴らしい。先生方のご指導のきめ細やかさを感じる。ただ、女子の参加者が多く、男子にももう少し参加者が増えてほしいところではある。また、プレゼンテーションを行うときには、発表者はもちろん、聞き手もマスクを外してお互いの表情を通じた発表になるように留意して指導していただきたい。</p> <p>働き方改革が求められている昨今、先生方のご負担が気になっている。難しいとは思いますが働き方を改善しながら今後も継続的なご指導をお願いしたい。</p> <p>グローバルな人材育成が求められている中で、常に向上心を持って取り組む生徒を育てていただきたい。</p>	<p>○「総合的な学習の時間」の取り組みや、小論文活動など、生徒の活動は積極的に行われていた。また、校外活動に対しても積極的に参加する生徒が多く見られた。次年度も同様に校内活動を推進するとともに、校外活動の参加も促していきたい。</p> <p>○教員アンケートではSSH事業のことが良く分からないという意見もあるので、さらに全校体制での実施に近づけるよう共通理解を図る必要がある。</p>
				2	「SSH活動は大学進学後の志望分野探しに役立った」生徒の肯定的評価60%以上	12月に実施したSSH生徒意識調査で生徒の肯定的評価は72.8%(+2.3)であった。				
			活動計画	1	小論文・探究活動・講演会・W-ing/SW-ingプランの活動に積極的かつ意欲的に取り組ませるとともに、進路を考える機会となるよう指導する。授業やホームルーム活動の中で、生徒の進路意識を向上させるよう働きかける。	HR活動において、生徒が積極的に参加できるように働きかけ、小論文・探究活動・講演会・W-ing/SW-ingプランの活動に取り組ませた。				
				2	SSH活動への参加を将来の志望分野探しに役立たせる。	「SW-ingカレッジ」や「脇高を出よう！」など志望分野探しにつながる事業を実施した。				
	(2)	個々の希望や適性に応じた多様な進路指導	評価指標	1	「先生は面談等を通じて、進路についてよく指導してくれる」生徒の肯定的評価85%以上「教員は個人面談などを通して、個々の生徒に応じた丁寧な進路指導をしている」保護者の肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価は91%であり、保護者の肯定的評価は89%であった。	A	B	<p>学校行事や生徒会活動に関しては、非常に高い評価数値が出ており、積極的な行動ができ、リーダーとしての資質が育まれている生徒が多い。</p> <p>グローバル化に対応した人材育成については、GTEC・英検等の受検人数は昨年度に比べて7.6ポイント増加しているが、国際社会に対する意識は依然として低いままであり、課題が残っている。</p>	<p>○新1年生より新しい入試制度に移行することを考慮し、平成30年度入学生はもちろん新2年生や新3年生に対する個別相談を充実し、進学に対する不安を減らす計画が必要である。</p> <p>○『道標』の内容を新テスト対応の内容を組み入れる必要がある。</p>
				2	「『道標』をはじめとする各種の進路情報は充実している」生徒・保護者の肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価は84.8%、保護者の肯定的評価は91%であった。				
			活動計画	1	定期的な個別面談や三者面談を実施するなど、きめ細やかな進路指導を行う。	3年生の担任は、随時面談を行い、生徒理解・進路相談を行った。				
				2	必要な進路情報を生徒・保護者に分かりやすく提供するとともに、『道標』の内容を充実させる。	『道標』を編集するとともに、その利用や資料室の整備に努めた。				
	(3)	生徒保護者が希望する進路目標の達成	評価指標	1	生徒・保護者から希望の高い国公立大学への合格者数が、在籍生徒数の50%以上	3月31日現在、国公立大学合格者114名、55%である。	B	B	<p>働き方改革が求められている昨今、先生方のご負担が気になっている。難しいとは思いますが働き方を改善しながら今後も継続的なご指導をお願いしたい。</p> <p>グローバルな人材育成が求められている中で、常に向上心を持って取り組む生徒を育てていただきたい。</p>	<p>○日頃から学業と部活動のバランスを意識するよう指導をしているが、16%程の生徒ができていないと感じている。また生徒より保護者の方が多くできていないと感じている。校内で生徒への働きかけと同時に、保護者に対しても校内の取り組みを発信したり、部活動単位でバランスをとる工夫をする必要がある。</p>
				2	「部活動顧問は、生徒の学習状況を考慮してバランスのとれた活動時間を設定している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は83.6%、保護者の肯定的評価は76.4%であった。定期考査3日前から原則部活動は休みにするなど学習とのバランスを重視した。				
			活動計画	1	日常の取り組みを学習成績に反映させ、丁寧な進路指導を行うことで個々の進路実現に結びつける。	個別試験対策では、休日においても学校に登校し個別指導が徹底できていた。また、学年の枠を超えての指導が結果に結びついている。				
				2	学習と課外活動とのバランスを取りながら、生徒の自己実現に向けた指導を行う。	学習と部活動のどちらか片方だけではなく、両方を高い次元でバランスをとらせることを目標として指導した。				
	(4)	将来、社会において活躍しうる脳高生の育成	評価指標	1	「学校祭や球技大会などの学校行事は、生徒会が中心となり活発に活動できている」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は96.6%であった。スムーズな運営ができるよう、生徒会役員としっかり連携を取り、実施に向けての準備も時間を掛けて行った。	A	B	<p>働き方改革が求められている昨今、先生方のご負担が気になっている。難しいとは思いますが働き方を改善しながら今後も継続的なご指導をお願いしたい。</p> <p>グローバルな人材育成が求められている中で、常に向上心を持って取り組む生徒を育てていただきたい。</p>	<p>○ここ数年で少しずつ生徒会の活動が主体的になってきているが、まだまだ成長できる余地がある。楽しみながら独創的な活動ができるよう、活動を促していきたい。</p> <p>○服装や言葉遣い、挨拶に関する指導は継続的に行うことができたので、次年度も続けていきたい。生徒会の挨拶運動も自発的に回数を増やして行うことができたので、こちらも継続していきたい。</p>
				2	「服装・言葉遣い・時間厳守を心がけた生活をしている」生徒の肯定的評価85%以上	「服装・言葉遣い・時間厳守を心がけた生活をしている」生徒の肯定的評価95.1%で目標を達成することが出来た。				
			活動計画	1	学校祭や球技大会などの学校行事を、生徒会主体で積極的に運営し、協働意識を高め、社会性を育てる。	前年度まで通りのことを行うのではなく、生徒の中から出てくる意見やアイデアを重要視して取り組ませることができた。				
				2	身だしなみについて各クラス・各学年・学校全体で継続的な指導を行う。また、朝のあいさつ運動を毎月実施する。	身だしなみについて各クラス・各学年・学校全体で継続的な啓発指導を行った。また、朝のあいさつ運動を毎月実施した。				
	(5)	将来、社会に貢献しようとする人材の育成	評価指標	1	「ISO清掃活動等、各種ボランティア活動に積極的に参加している」生徒の肯定的評価50%以上	生徒の肯定的評価は52.4%(+10.9)で目標を達成することができた。	B	B	<p>働き方改革が求められている昨今、先生方のご負担が気になっている。難しいとは思いますが働き方を改善しながら今後も継続的なご指導をお願いしたい。</p> <p>グローバルな人材育成が求められている中で、常に向上心を持って取り組む生徒を育てていただきたい。</p>	<p>○ボランティア活動に対する意識は決して高いとは言えない。今後広報や啓発の方法を工夫し、意識を高めていく必要がある。</p> <p>○修学旅行での企業訪問や官公庁訪問は生徒に大きな刺激を与えている。継続して行い、さらに進路意識の高揚につなげていけるよう事前・事後の活動に力を入れていきたい。</p>
				2	「修学旅行の自主研修に積極的に取り組み、社会への関心が高まった」生徒の割合80%以上	「関心が高まった」生徒の割合は93.2%であった。修学旅行の柱の一つとして大きな意味をなしていると言える。				
			活動計画	1	ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、社会貢献への意識を高める。	各種ボランティアの案内を各クラスを通じて行っているが、生徒が積極的に参加するまでには至っていない。				
				2	修学旅行の自主研修「企業・官公庁等訪問」やその事前研究、事後発表を充実させ、社会への関心を高める。	企業・官公庁等訪問に関する事前研究は十分に時間を掛けて行われた。事後はレポートをまとめ、ポスター発表を行った。				
	(6)	グローバル化に対応できる人材の育成	評価指標	1	「英検やGTECの受検、ALTとの授業に主体的に取り組んだ」生徒の肯定的評価50%以上	55.9%の生徒が英検やGTECの受検、ALTとの授業に積極的に取り組んだと、肯定的な回答をしている。新共通テストに向け、受検に向け継続して積極的に取り組ませる。	B	B	<p>働き方改革が求められている昨今、先生方のご負担が気になっている。難しいとは思いますが働き方を改善しながら今後も継続的なご指導をお願いしたい。</p> <p>グローバルな人材育成が求められている中で、常に向上心を持って取り組む生徒を育てていただきたい。</p>	<p>○来年度入学生より新共通テストが実施され、英語もスピーキングやライティング等も評価の対象となる。来年度入学生より、GTECに向けた対策として新教材を活用し対応する。また、授業改革も継続して行い、リスニングやスピーキング、ライティングを今まで以上に重点を置いて指導する。</p>
				2	「国際社会の様々な問題に興味・関心を持ち、新聞・書籍・インターネット等を利用して調べている」生徒の割合が50%以上	肯定的な回答をした生徒は46.9%にとどまった。まだ教員が生徒の国際社会により興味関心を高めるために、授業の教材等を利用してより積極的な働きかけが必要である。				
			活動計画	1	生徒の英語学習への意欲を高め、英検やGTECの受検をすすめる。国際理解教育の充実をはかり、コミュニケーション能力向上のためにリスニングやインタビューテストを取り入れる。	英検の受検率は30.9%、GTEC受検率は97%(1・2年生)であった。来年度からは全員にGTECでスピーキングテストを導入し、コミュニケーション能力の向上を図りたい。				
				2	新聞・書籍・インターネット等を活用し、異文化に関する知識と正しい認識を持たせるとともに、グローバル化に柔軟に対応できる能力を育成する。	英字新聞の定期購読等も含め、国際社会に関する書籍の紹介が積極的に行われなかった。今後は、異文化理解を促す書籍類等の紹介をより一層行いたい。				

3	自己有用感や自己肯定感を育み、仲間と協働できる豊かな心をもち、公共心と社会性を備えたい生徒を育成する。	環境美化・防災に対する意識の向上	評価指標	1	「清掃活動に積極的に取り組んでいる」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価86.2%と目標数値を上回った。	B	B	四月に美馬市に「ミライズ」の完成が予定されており、今後登下校の時間帯に交通量の増加が予想される。今年度通学路の変更によって、交通マナーの改善に繋がっていることではあるが、引き続き継続的な指導が大切と考える。 各種読書感想文コンクール等で目覚ましい成果を修めていることはすばらしい。しかしながらそれに比べて読書量が少ないように感じる。図書室の利用が昨年度よりは上昇したとことであるが、思考力・読解力の向上は読書によって培われる部分も大きいので、できるだけ多くの生徒が本を読む学校にしてほしい。
				2	「防災訓練に、関心を持って積極的に参加している」生徒の肯定的評価75%以上	防災訓練について関心を持っている生徒は74.4% (+7.7) と昨年よりも意識も上昇している。東南海地震に備える為にも防災意識を高めることができた。			
		活動計画	1	快適な環境で学習できるよう、清掃活動やゴミの分別に積極的に取り組ませる。	ゴミの分別は十分できている。校舎内に付着しているクモの巣等も掃除できている。	A			
			2	高校生防災士を活用して、参加体験型訓練など体験を重視した活動を取り入れ、防災に対する関心を高め、家庭でも学校でも積極的に行動できるよう指導する。	防災訓練に参加体験型として煙体験避難訓練を行なった。防災クラブの者がリーダーとなり消火訓練等を行うことができた。				
		集団や社会の一人として協力	評価指標	1	「ホームルーム活動や部活動を通して、好ましい人間関係ができています」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は92.0%であった。日々の部活動やホームルーム活動が、好ましい人間関係の構築に大きく貢献していることがうかがえる。	B		
				2	授業や小論文・人口減少社会などの探究活動・講演会を通じ、社会的問題を主体的に考える意識が高まった」生徒の肯定的評価60%以上	生徒に対するアンケートの肯定的評価は80.6%で、目標数値を上回った。探究活動やプレゼンテーションなどは全校的な取り組みとして実施できており、講演会などでも、質疑が行われるなど生徒の主体的取り組みが見られる。			
		活動計画	1	ホームルーム活動や部活動を通して、集団の中での役割や立場を理解し、仲間と協力して目標に向かって努力できる生徒を育成する。	協働的にホームルーム活動を進めたり、部活動内での役割を意識して取り組ませることを意識して指導できた。	B			
			2	主権者教育年間計画表に従い、主権者意識を高めるための授業、ホームルーム活動、総合的な学習の時間、学校行事を実施する。	教科学習や探究活動の他、全校集会による選挙の講話や、2学年に対しては政治的教養を高めるための講演会の実施や模擬投票などの体験的学習を行った。				
		3	基本的な生活習慣の育成、安全教育の推進	評価指標	1	「交通安全・交通マナーについて、日ごろから十分意識し、守っている」生徒の肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価は94.9%であり、目標達成できた。交通事故等は昨年度16件、今年度19件。昨年より3件増加した。	B	
					2	「学校では携帯電話の利用時間を守っている」生徒の肯定的評価80%以上	「学校では携帯電話の利用時間を守っている」生徒の肯定的評価93.4%で目標達成できた。		
		活動計画	1	バイクの安全運転実技講習会を開き、車体検査を各学期に行う。また、登下校指導を毎月行うなど、交通安全教育を徹底する。	バイクの安全運転実技講習会を2学期に開き、車体検査を1・2学期に行った。また、登下校指導を毎月行うなど、交通安全教育を徹底した。	B			
			2	個人面談や家庭及び関係機関との連携を行い、情報モラルを身につけさせるとともに、携帯電話やスマートフォン等の利用ルールを守らせる。	個人面談や家庭及び関係機関との連携を積極的に取ることができた。情報モラルを身につけさせるとともに、携帯電話やスマートフォン等の利用ルールを守らせることができた。				
		4	保健指導の充実	評価指標	1	「保健だよりの発行」年間10回以上	時節や生徒の生活状況に応じた保健だよりを、毎月1回発行することができた。	B	
					2	「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」教職員100%	教職員の肯定的評価は95.3%であり、目標は達成できなかった。		
		活動計画	1	時節や生徒の生活状況に応じて保健だよりを定期的・臨時的に発行するなど、効果的な保健指導を行う。	時節や生徒の生活状況に応じた保健だよりを発行することができた。	B			
			2	教職員に加え部活動生徒への救急法講習会を実施するなど、校内救急体制の充実と努める。教職員対象救急法講習会(年1回実施)	教職員に加え、部活動の代表生徒への救急法講習会を1回実施することができた。				
		5	教育相談及び特別支援教育の充実	評価指標	1	「悩みや不安を親身に聞いてくれる先生がいる」生徒の肯定的評価80%以上 「先生は保護者や子どもの相談に誠実に対応してくれている」保護者肯定的評価80%以上 「生徒や保護者の相談に、誠実に対応できている」教職員の肯定的評価90%以上	「悩みや不安を親身に聞いてくれる先生がいる」生徒の肯定的評価80.2% 「先生は保護者や子どもの相談に誠実に対応してくれている」保護者の肯定的評価91.1% 「自己理解調査や職員研修を生かし、学級や部活動などで生徒の居場所作りを努めることができた」教員の肯定的評価は88.4%だった。生徒や保護者の目標達成はできたが、教員の評価は目標達成できなかった。	B	
					2	「欠席がちな生徒や悩みを抱えた生徒に対して、組織的に対応できている」教職員の肯定的評価95%以上	「欠席がちな生徒や悩みを抱えた生徒に対して、組織的に対応できている」教員の肯定的評価90.7%で、目標は達成できていない。		
		活動計画	1	悩みや不安を抱えていながらも言い出せない生徒がいることを常に意識し、生徒が相談しやすい環境づくりと誠実な対応に努める。	教員研修では、スクールカウンセラーを招いて本校の生徒の特性や特徴的な捉え方について学んだ。多くの教員が、生きにくさを抱えている生徒が多くいると実感した。	B			
			2	不登校や悩みのある生徒に対して、担任をはじめ教科担任や部活動顧問、関係機関とも連携し、組織として迅速かつ臨機応変な対応ができるように努める。	不登校や悩みのある生徒について、保護者と連携して、徳島県精神保健福祉センターの思春期外来やスクールカウンセラーの利用をすすめるなど、関係機関とも連携できた。				
		6	人権教育の推進	評価指標	1	「人権問題について学んだことを、日常生活に活かそうとしている」生徒の肯定的評価75%以上	生徒の肯定的評価は84.0%と目標を達成することができた。人権問題について「知り、学び、考え」たことが、実践に繋がりがつつあることがうかがえる。	B	
2	「人権学習ホームルーム活動は充実している」生徒の肯定的評価80%以上				話し合いを中心に据えた人権学習ホームルーム活動の定着もあるためか、生徒の肯定的評価は89.8%と目標を達成することができた。				
活動計画	1	「協同人権の日」のテーマ設定や資料づくりに人権委員を携わらせ、生徒の視点を取り入れることにより、人権問題をより身近なものとして捉えさせる。	「協同人権の日」のテーマ設定や資料づくりを1・2年生の人権委員が2クラスずつで担当して行った。高校生の視点を取り入れた資料づくりはできたが、生徒の主体的取組という点では課題が残る。新たに始めた「人権の日だから語る会」では、「人権の日」を担当した人権委員と、人権「いのち」の会生徒が中心に、その日のテーマをより深める時間となった。	B					
	2	第1・2学年において学年一斉の人権学習ホームルーム活動を年間1回実施する。生徒の実態を考慮しながらホームルーム活動で扱うテーマを再構成するとともに、各学年で指導案や資料を十分に検討し、生徒の主体的な活動を積極的に取り入れる。	今年度は3年生での実施も叶い、全学年そろっての学年一斉ホームルーム活動が実現した。そして、1年生人権「いのち」の会生徒3名による司会進行で、一斉ホームルーム活動を行うこともできた。校外での学びを校内で発信する機会を持つことは、リーダーシップの育成や、生徒たちの主体性の向上に繋がったと考える。						
7	感性豊かで、調和のとれた人間性の育成	評価指標	1	「学校行事・修学旅行・文化祭等の学校行事を通して、芸術や文化活動に積極的に取り組んだ」生徒の肯定的評価60%以上	生徒の肯定的評価は91.3%であった。十分前向きに活動できていることがうかがえる。	B			
			2	「普段から読書に親しんだり、朝のコラムや新聞を読むように心がけている」生徒の肯定的評価60%以上 図書貸出し数・入館者数の増加	生徒の肯定的評価は64.7%(+16)であり、昨年度より大きく向上した。図書の貸し出し数及び入館数については、入館数はあまり変わらないが、貸し出し数は増加した。(2065冊、+174冊)				
活動計画	1	学校行事・修学旅行・文化祭等の活動の中で芸術や文化に触れる機会を設け、芸術・文化について理解を深めるとともに、豊かな情操を養う。	修学旅行での観劇、文化祭でのスタンプラリー、校内での映画鑑賞会などで各種の芸術に触れる機会を設けることができた。	B					
	2	読書推進週間を設け、図書館だよりの充実やコラムの継続及び読書の推進を図る。	読書推進週間を設定し図書館の利用方法を工夫するとともに、毎月の図書館便りの発行及び、コラムの配付を100回以上継続した。						
<p>〇防災については、文化祭等で寝袋体験や非常食の試食等を通して意識付けを高く工夫したつもりではあるが、まだ浸透するには至っていない。今後起こるであろう東南海地震についても考えさせ、文化祭だけでなく、あらゆる機会を捉えて意識付けさせることが必要である。</p> <p>〇防災士(スペシャリストティーチャー)が高校生防災士や防災クラブを活用し防災訓練をスムーズに行えるように避難誘導する必要がある。</p> <p>〇協働的な雰囲気の中でホームルーム活動が行われている。集団への帰属意識を高め、さらにその中で自分の果たせる役割を常に考えさせる活動を進めていきたい。</p> <p>〇全校的に実施されている授業改善の取組やSSH事業における探究活動と、政治的教養を高めるための取組は多くの部分で重なるという点を職員間で共通認識として共有し、各取組を一層積極的に推進していく必要がある。</p> <p>〇生徒の肯定的評価を過信すること無く、交通安全教育の積極的な推薦・啓発活動、携帯電話の利用マナー等で健全・安心な教育環境に努めなければならない。</p> <p>〇基本的な生活習慣の確立のために、全校的に実施している、いじめアンケートを活動計画に取り入れる必要がある。</p> <p>〇生徒の学校生活をよく観察し、保健だよりと保健指導の内容のさらなる充実と努める必要がある。</p> <p>〇緊急時に全員が適切な措置を行えるよう、救急法講習会の日時を調整する必要がある。</p> <p>〇生徒や保護者の肯定的評価を過信すること無く、合理的配慮のできる教育環境を作らなければならない。</p> <p>〇スクールカウンセリングを希望する生徒や保護者は多く、生きにくさを抱えている生徒の要因や環境整備などの配慮が必要であることを教員は認識する必要がある。</p> <p>〇不登校になるまでには、生徒は非常に悩み苦しんでいる。そのサインを多くの教員が見逃さず、複数の教員で協力しながら生徒に対応していく。</p> <p>〇教員が、自己理解に向けて助言ができるスキルを身につけることが望ましい。</p> <p>〇「協同人権の日」の人権委員による企画・運営は定着しつつある。本年度始まった「人権の日だから語る会」も主体的な活動として根付かせたい。そのためには、人権委員や人権「いのち」の会のメンバーだけではなく、他の生徒にも参加を広げたい。</p> <p>〇人権学習ホームルーム活動の主題を見直し、年間を通じたテーマを意識できるようにすることで、より日常生活に活かせるものにしていきたい。</p> <p>〇芸術や文化活動に積極的に触れさせるために、もっと地域に向かい活動を導入していきたい。</p> <p>〇「読む」ことを通じて「考える力」や「書く力」の向上につながるよう、読書習慣の定着を図る必要がある。</p>									